

特集1
special feature

弘前市立博物館蔵「青森町絵図」

陸奥湾

道は昔のまま残っている

340年前のこの絵図に描かれている道路のうち、分かりやすいのが絵図の「制札場」前の複雑な形の交差点です。奉行所などもありました。

港町あおもりの誕生をひもとく

青森港は 2025年に 開港400年を 迎えます

ざっくり

青森市のみなととまちの歴史

1625
寛永2年

開港

幕府から
津軽・江戸間の
廻船が許可される

米を江戸に運ぶことなどを目的に、弘前藩第2代藩主・津軽信枚(のぶひら)が幕府から津軽・江戸間の廻船就航の許可を得ました。これが青森の「開港」とされ、翌年、家臣の森山弥七郎らによる青森のまちづくりにつながりました。

1626
寛永3年

まちづくり
の始まり

青森市まちづくり
の始まり

弘前藩庁が、「青森への人寄せ(移住促進)」など3か条からなるまちづくりの基本方針を示し、まちづくりがスタートしました。

1871
明治4年

青森県誕生、
青森町が
県庁所在地に

廃藩置県で青森県が誕生、青森町が県庁所在地になりました。



浜町棧橋

1891
明治24年

青森港が
貿易港として開港指定

1892(明治25)年頃から盛んとなっていた青森開港の動きがようやく実を結びました。

青函連絡船就航

日本鉄道を買収した政府は青森～函館間に「比羅夫丸」を就航させました。これが青函連絡船の始まりとなりました。

日本鉄道の
上野～青森間全通

日本鉄道上野～青森間(後の東北本線)が全通しました。しかし鉄道から船に乗り継ぐ場合、駅から遠い浜町棧橋で船(はしけ)に乗り、沖合に停泊する船に乗っていました。

1906
明治39年

1908
明治41年

1915
大正4年

青森築港起工式

当時の青函連絡船など大きな船舶は青森港に接岸できなかったことから、船の大型化に対応できる港湾設備が必要となり、青森港では本格的な築港工事が始まりました。



連絡船の
貨車搬送開始

青森港の築港完成を受け、連絡船に鉄道貨車を積む「貨車航送」が実現しました。

1925
大正14年

来年に向けて、プレ開港記念事業が盛りだくさん!

10/6(日)

むつ湾感謝祭2024

@ねぶたの家ワ・ラッセ

10:00～〈多目的室〉

むつ湾の絵コンクール参加作品展示、むつわんかるた、シーグラスで芳香剤を作ろう、海の絵本読み聞かせなど

13:00～〈イベントホール〉

むつ湾の絵コンクール2024表彰式

14:00～〈イベントホール〉

八甲田丸60周年記念 近藤金吾&吉田栄作ライブ

150人 備 当日、直接会場へ(11:00～整理券発行)

問 むつ湾感謝祭2024実行委員会事務局(NPO法人青森県環境パートナーシップセンター ☎017-721-2480)



10/6(日)

八甲田丸就航60周年&
みなとまち・あおもり誕生400年
記念講演会と記念フォーラム

@青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

八甲田丸HP

10/13(日)

14(月)

【みなとまち・あおもり誕生400年記念事業】
砕氷艦しらせ一般公開!

@青森港新中央埠頭

南極観測で活躍する砕氷艦「しらせ」が、19年ぶりに青森港へ寄港。南極の氷と石も展示します!

10/13(日) 13:00～16:00

10/14(月) 9:00～13:30

※公開時間は予定です。今後、変更になる可能性があります。

備 乗艦時の手荷物検査にご協力をお願いします。車両での入場はできません。有料駐車場または公共交通機関をご利用ください。

問 交流推進課 ☎017-734-5415



10/19(土)

20(日)

鉄道の日
ウィークエンド
in八甲田丸

@青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

JRあおもり駅まつり

10:00～16:00 ※20日は15:00まで

鉄道模型ショー

10:00～16:00 ※20日は15:00まで

元青函連絡船機関長による特別解説

①10:30～ ②13:30～(1時間程度)

観覧料が必要です。

備 有料駐車場または公共交通機関をご利用ください。

問 青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸

(☎017-735-8150)



青函連絡船メモリアルシップ
八甲田丸を見に行こう!

八甲田丸は今年で就航60周年。船内では当時の船長室、鉄道車両を搭載する車両甲板などを見学できるほか、昭和30年代の活気あふれる青森駅前のジオラマ展示などもあり、見どころいっぱい。



江戸時代の絵図

この絵地図は約340年前の青森の町のもので、当時の町の中核的部分は現在の平和公園通(当時は蜷貝川)から善知鳥神社付近までだったそうです。現在の地図と見比べてみると、ほとんどの道路がそのまま残っていることがわかります。今と違うのは町の中にいくつかの水の流れ(水路など)があったところです。今の青森市と比べてみると新しい発見がまだまだあるかもしれません。

今回お話を聞いたのは...

青森市民図書館 歴史資料室 工藤 大輔 室長

江戸時代専門です



北海道出身。東京での大学院生時代、青森市史編さん事業に従事するために青森市へ。以後、市史、青森県史などの編さんに携わってきた。同市の歴史講座の講師なども積極的に務める。

〒030-0855 青森市 歴史資料室 (☎017-732-5271)

振り割り(水路)で米を運んでいた

青森の町は、領内で生産された米を江戸に送る海運のために開かれました。津軽半島方面から集められた米は蔵に取められた後、絵図にある振り割り(水路)で小舟に積み、沖合の船に運んだと考えられます。

実は有名人も数多く訪れている

青森町は北海道への渡航のための地でもあり、昔から多くの有名人が訪れていました。例えば伊能忠敬、中浜万次郎(ジョン万次郎)、松浦武四郎、菅江真澄などです。街を歩いて、有名人の石碑や泊まった場所を探すのも楽しいですよ。

1945 昭和20年

青森大空襲で青函連絡船破壊、中心街は焦土に

太平洋戦争末期の1945(昭和20)年7月、8月青森市はアメリカ軍に空襲され、市街地は焦土と化し、青函連絡船も爆撃を受けました。

1986 昭和61年

青函トンネル開通、青函連絡船は廃止

本県津軽半島と北海道道南を鉄道で結ぶ青函トンネルが開通しました。これにより80年にわたって青森と函館の港を結び本州と北海道間の鉄道輸送に貢献してきた青函連絡船が廃止されました。

1988 昭和63年

新幹線の新青森駅開業

2010(平成22)年12月、東北新幹線は新青森駅まで開通し全線が開業。これに伴い、青森駅は在来線特急列車の発着が減るなど役割が変わってきました。

1992 平成4年

開港から400年

まちづくりの始まりから400年

たくさんのイベントが開催される予定です。ぜひ足を運んでみてください。

アスパム開館

青森市宮魚市場(通称:安方魚市場)が卸町に移転し、青森漁港も堤川以東に移転。両施設の跡地の一部に県観光物産館アスパムが完成しました。



建築途中のアスパム 撮影者:竹内義文さん



青森EXPO'88 青函トンネル開通記念「青森EXPO'88」はアスパムを主会場に開催



青森ベイブリッジ暫定開通

鉄道で分断された青森市中心部の東西エリアを結ぶ「青森ベイブリッジ」が暫定開通し、2年後に全面開通。青森駅やベイエリアを見下ろす巨大な橋は、青森のランドマークの1つになっています。



現青森駅(5代目)の開業

1959(昭和34)年建設の4代目駅舎の老朽化により、5代目の駅舎が整備されました。その後、2024(令和6年)にはJR青森駅東口ビルも完成しました。

※年表中の写真(「現青森駅(5代目)」を除く)は全て青森県所蔵県史編さん資料です。青森県史デジタルアーカイブスよりご覧になれます。



世界中から訪れるクルーズ船



近年の青森港には国内外を周遊旅行するクルーズ船が数多く訪れています。今年は、10月末までに約40隻が寄港する予定です。1隻寄港すると数百人から数千人もの乗客がベイエリアなど観光スポットを訪れ、大きな経済効果を生んでいます。

10月以降のクルーズ船寄港予定

入港日時	クルーズ船名(総トン数)	乗客定員
10/3(木)10:00	初寄港 セブンス・エクスプローラー(65,264)	746
10/12(土)8:00	初寄港 シルバー・ノヴァ(54,700)	728
10/15(火)8:00	初寄港 ノールダム(82,897)	1,924
10/24(木)9:00	初寄港 レガッタ(30,277)	684

※新中央埠頭に寄港予定

来年開催のイベント Sea級グルメ全国大会

開港400年記念イベントとして、水産物を生かした全国ご当地の料理が一堂に会する「Sea級グルメ全国大会」が令和7年秋、青森市で開かれます。青森のご当地メニューは「田酒を使った青森ホタテの酒蒸し」を出品します。



◀田酒を使った青森ホタテの酒蒸し 陸奥湾産ベビーホタテを使用。スッパリした塩味でホタテのうまみが存分に味わえます。

Sea級グルメオフィシャルページ >>>>



西秀記市長メッセージ

みなとまち・あおもり誕生400年プロジェクト

皆さん、青森港が来年開港400年を迎えることはご存知ですか? 私は市長になる前にこのことを知り、市民みなで祝い、青森港の歴史を振り返るとともに、みなとまち・あおもりの未来を考える機会を作ろうと活動してきました。今年から再来年にかけて



様々な記念事業を予定していますので、皆さんにもみなとまち・あおもりのことを知り、親しみ、考える機会になることを願っています。

